

霧島錦江湾国立公園満喫プロジェクト

えびの高原「上質な宿泊施設誘致」における事業者公募に向けた

「対話」実施に関する説明資料

平成30年1月

えびの高原宿泊施設誘致等実行委員会
(環境省九州地方環境事務所・宮崎県・えびの市)
【事務局：宮崎県】

1. 国立公園満喫プロジェクトについて

- 背景及び概要、コンセプト
- 霧島錦江湾ステップアッププログラム2020について
- 霧島錦江湾国立公園における取組の課題と取組方針 等

2. えびの高原「上質な宿泊施設誘致」について

- 取組の概要
- 対象予定地の位置、概要
- えびの高原の既存の主要施設の配置
- 「対話」の目的、内容
- 事業者公募に向けた基本事項 等

明日の日本を支える観光ビジョン 平成28年3月30日

■ 国立公園の「ナショナルパーク」としてのブランド化

- 「国立公園満喫プロジェクト」として、まずは5箇所の国立公園で、「国立公園ステップアッププログラム2020」を策定し、訪日外国人を惹きつける取組を計画的、集中的に実施

国立公園満喫プロジェクト

- **目標** 2020年までに訪日外国人の国立公園利用者数を現在の約2倍の1000万人に！

■ 基本的考え方

- ① 「最大の魅力は自然そのもの」をコンセプトに、非日常的な体験を世界の人々に提供
- ② 最高の自然環境をツーリズムに開放し、**高品質・高付加価値のインバウンド市場**を創造

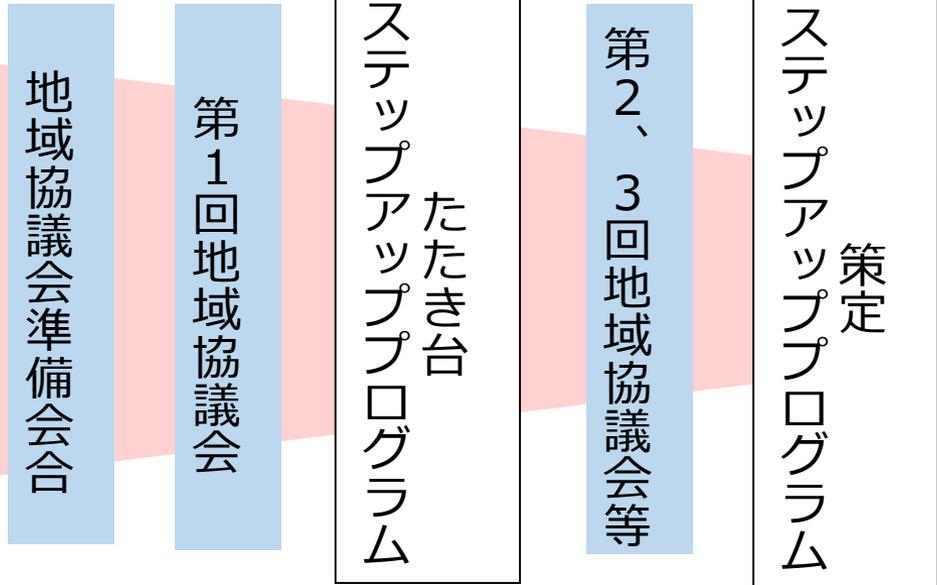
平成28年7月 先行的に取り組みを進める8公園を選定



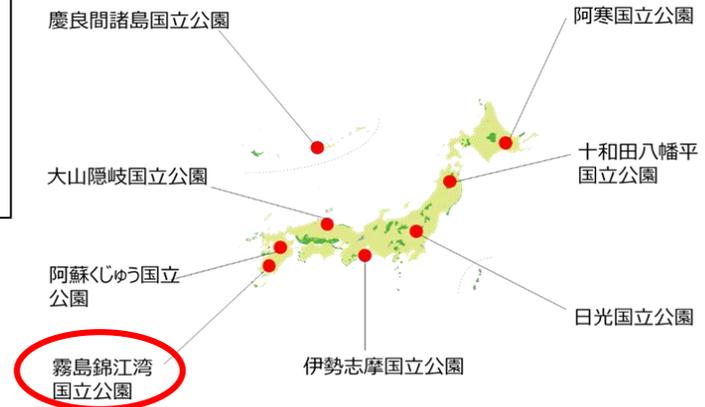
国立公園満喫プロジェクト等推進事業等国、県、市町村、民間事業者はそれぞれ実施

ステップアッププログラムに基づき各種取組を実施

外国人国立公園利用者数 1000万人



有識者会議委員等のアドバイザーから助言



コンセプト

多様な火山とその恵み、壮大な歴史と神話に彩られた霧島・錦江湾

～まるごと楽しむ南九州の自然・文化・食～

ターゲット

- 地域別では、9割以上を占める**アジア地域**を中心に誘客を行うとともに、2019年に開催されるラグビーワールドカップ等で今後九州への来訪が見込まれる**欧米豪地域の市場も開拓**
- 旅行形態別では、**個人や家族単位の少人数のグループ**で、空港や鹿児島中央駅、宮崎駅などの**主要交通拠点から公共交通機関やレンタカー等**を利用する**外国人観光客**をターゲットとし、山海の自然や温泉等の観光資源を活用した誘客
- 団体旅行で来訪している外国人観光客についても、**個人旅行客として再訪してもらえ**るような**魅力の発信**をすることで、**リピーターやファンを増や**していく

協議会構成員

構成員		
国	九州森林管理局	計画保全部長
	九州地方整備局	企画部長
	九州運輸局	観光部長
	九州地方環境事務所	所長
県	宮崎県	環境森林部長
	鹿児島県	環境林務部長
地方自治体	都城市	市長
	小林市	市長
	えびの市	市長
	高原町	町長
	鹿児島市	市長
	指宿市	市長
	垂水市	市長
	霧島市	市長
	始良市	市長
	湧水町	町長
	南大隅町	町長
	民間	(一社)九州観光推進機構
(公財)みやざき観光コンベンション協会		会長
(公社)鹿児島県観光連盟		専務理事

数値目標

外国人利用者数 7.1万人(2015年) → 20万人(2020年)

国立公園区域



課題

霧島錦江湾国立公園は、多様な火山地形や温泉等の恵みが大きな魅力となっているが、**地域を楽しむ仕組みが少なく、滞在時間が短いこと、国立公園への誘導が不十分**なため、魅力を十分に伝えられていない。

滞在時間が短いという課題に対しては、滞在時のサービス充実度を上げるため、**新たな魅力の創出や、滞在しやすい利用環境を整える**必要がある。また、国立公園への誘導対策については、**プロモーションやアクセスルート上の整備等**の取組が重要となる。



霧島地域の取組方針

- 多様な火山地形や火口湖の景観を活かした**上質な宿泊施設の誘致**及び魅力的なアクティビティの開発
- 多種多様な泉質を誇る**温泉、湧水、神話や史跡、伝統文化、食などの地域資源を自然体験と組み合わせることによる多様なニーズに対応できるツアープログラムの開発**（霧島周遊ツアー等）
- 既存のガイド団体の取組を活かした**地元ガイドの育成・充実**
- 主要交通拠点からの**二次アクセスの充実**
- **霧島ジオパークの取組との連携**

霧島錦江湾国立公園 満喫プロジェクト

赤字は実施済の取組

多様な火山とその恵み、壮大な歴史と神話に彩られた霧島・錦江湾

(数値目標) ~ 外国人利用者数 7.1万人(2015年) → 20万人(2020年) ~

~ まるごと楽しむ南九州の自然・文化・食 ~

特徴①

歴史と神話に彩られた活きた火山景観、日本の国立公園の原点である雄大な自然を体感

天孫降臨神話のある高千穂峰、活火山で現在も噴煙を上げる新燃岳や桜島、海域カルデラ景観が広がる錦江湾など、多種多様な火山景観を中心に、我が国最初の国立公園の風格を存分に堪能

- 海外向けメディア等を招聘した**ファミトリップの実施** (H29.10)
- 本土最南端・佐多地区における一体的な利用環境の整備**
- えびの高原における**上質な宿泊施設の誘致と周辺アクティビティ造成の検討** (H29より開始)

特徴②

外国人旅行者にとっても魅力的な火山の恵み(温泉、アクティビティ等)を満喫

ダイナミックな火山景観を背景に、多種多様な泉質の温泉や山と海を見渡せる温泉等を快適に楽しみ、火口湖や海での水上アクティビティや天然温泉掘り等の火山ならではの体験を堪能

- 火口湖や海でのカヌー、カヤック等の水上アクティビティやサイクリング、トレッキング等の多様なプログラムの充実
- 白紫池でのスタンドアップパドルボード(SUP)の試行 (H29.9)
- 天然温泉掘り・スメ体験等既存メニューの磨き上げを検討

特徴③

特色ある3地域を周遊・滞在し、山から海まで、多様な南九州の自然・文化・食をまるごと満喫

多彩な魅力を持つ3地域(霧島・桜島・錦江湾奥、指宿・佐多)を周遊・滞在しながら、山から海まで、南九州の自然・文化・食をまるごと体感

- 地元自治体による**観光周遊バスの試行的運行**(佐多地域・霧島地域南部)
- 道の駅えびの周辺で**アウトドア拠点施設を整備予定**
- 九州自然歩道等を活かしたゆっくり歩いて楽しむプログラムの開発(地元観光団体がロングトレイル構想を検討中)

ビューポイント

えびの高原・白鳥温泉



夷守台・生駒高原



えびの高原における「上質な宿泊施設の誘致」に向けた検討

平成28年12月

霧島錦江湾国立公園ステップアッププログラム2020 における記載

えびの高原・白鳥温泉

「上質な宿泊施設の誘致

・ホテル跡地やピクニック広場の活用を検討します。

（高級ホテルやグランピング施設の誘致など）」

平成29年～

環境省、宮崎県、えびの市の3者において進め方等を検討

平成29年12月

実行委員会の立ち上げ【事務局：宮崎県】

（環境省九州地方環境事務所、宮崎県、えびの市）

平成30年2月

事業者との対話の実施

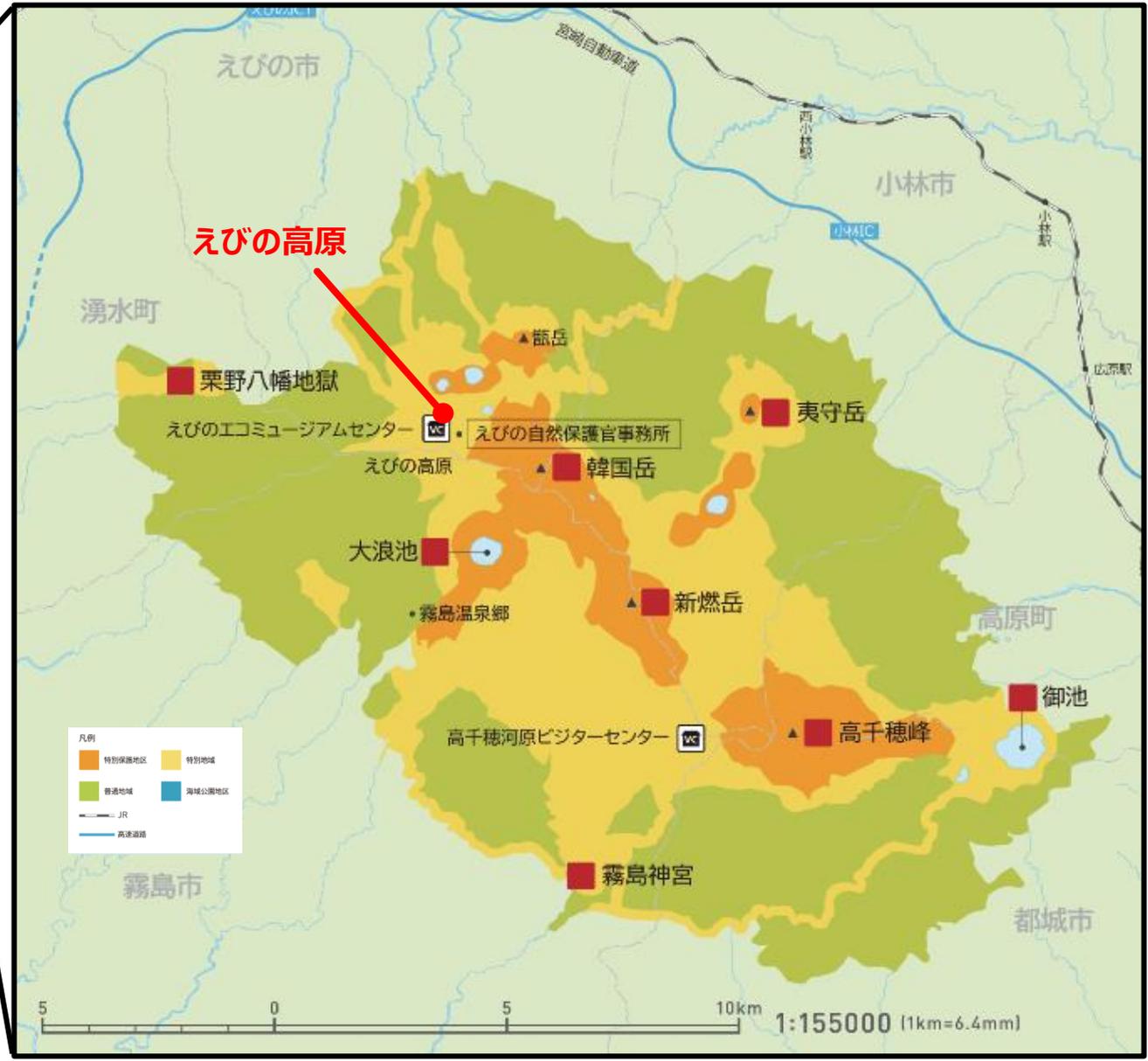
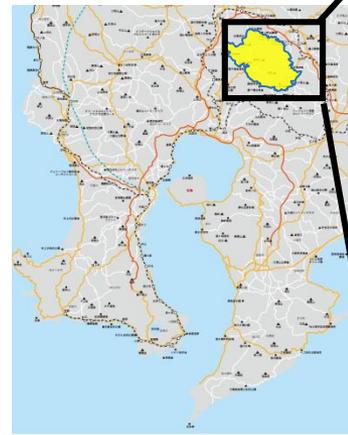
平成30年度中

公募実施（予定）

霧島錦江湾国立公園
（霧島地域）



霧島錦江湾国立公園 (霧島地域)



えびの高原「上質な宿泊施設誘致」の取組概要

1. 名称

霧島錦江湾国立公園満喫プロジェクト えびの高原「上質な宿泊施設誘致」

2. 実施目的

国立公園のインバウンド利用者の増加と対応充実を目指す「国立公園満喫プロジェクト（霧島錦江湾国立公園ステップアッププログラム2020）」に基づく取組の一環として、霧島錦江湾国立公園の主要な利用拠点の一つであるえびの高原において、環境省所管地である旧ホテル跡地に上質な宿泊施設を誘致し、周辺地域を含めたエリア全体の魅力向上を図る。

特に、国立公園の資質を活かした、旧ホテル跡地への上質な宿泊施設誘致の可能性や、宿泊施設と連動した体験プログラムの提供等を通じた利用環境の充実による、周辺地域を含めたエリア全体の魅力向上を図る。

3. 実施主体

えびの高原宿泊施設誘致等実行委員会 【事務局：宮崎県】
（環境省九州地方環境事務所、宮崎県、えびの市）

【経緯】 霧島錦江湾国立公園ステップアッププログラム2020に係るえびの高原・白鳥温泉における上質な宿泊施設の誘致に関し、関係機関での役割分担や権限等を整理し、本事業の実施に係る意思統一を図るため、えびの高原宿泊施設誘致等実行委員会を設置。

【構成機関】

所属	役職
環境省九州地方環境事務所	統括自然保護企画官
宮崎県	環境森林部長
えびの市	えびの市長



対象予定地の概要

1. 敷地概要

所在地 : 宮崎県えびの市末永1495番地
面積 : 約1.5ha (15,526.4㎡)

2. 主な経緯

旧えびの高原ホテル (宮崎交通株式会社)
昭和33年 7月 開業
平成 8年 4月 全面改装
平成11年 5月 宿泊部門終了
平成15年12月 ホテル再建を断念

3. インフラ条件

現状は更地

- ・電気：県道沿いから受電
- ・ガス：なし(都市ガスなし)
- ・上水道：霧島側浄化タンクから引用
- ・下水道：なし

4. 都市計画制限

なし

5. 法に基づく指定状況、土地所有等

- ・自然公園法に基づく国立公園・第2種特別地域及びえびの集団施設地区内
→自然公園法に基づく公園事業執行申請の手続が必要
- ・鳥獣保護管理法に基づく国指定鳥獣保護区・特別保護地区
→鳥獣保護管理法に基づく許可申請の手続が必要
- ・文化財保護法に基づく国指定天然記念物 (ノカイドウ自生地)
→文化財保護法に基づく現状変更許可の手続が必要
- ・環境省所管の国有地
→国有財産法に基づく土地使用許可等の手続が必要

1. 目的

- ・ 事業者の公募に向けて、広く意見や提案をいただき、公募条件整理に役立てる。
- ・ 当該事業用地のポテンシャルや市場性など、公募に向けた参考情報などを聴取する。

2. 実施概要

- ・ 期間は平成30年2月13日(火)～2月20日(火) 場所は宮崎県庁。
- ・ 対話参加の申込み期間は平成30年1月10日(水)～2月6日(火)17時まで。
- ・ 対話の所要時間は1グループあたり1時間程度。非公開で実施。
- ・ 事前説明会・現地見学会を平成30年1月25日(木)に開催。参加希望者は平成30年1月19日(金)17時までに要申込み。

3. ヒアリング項目

- ① えびの高原全体への波及を見据えた導入施設(宿泊・その他)の考え方
- ② えびの高原の事業環境の評価(その魅力及びポテンシャルについて)
- ③ 事業用地の評価(敷地条件等)
- ④ 現地の交通アクセスに対する評価
- ⑤ 地元えびの市等の観光施策やえびの高原全体の施設整備に対する寄与の考え方
- ⑥ 上質な宿泊施設に必要な施設の内容(主要な施設の考え方)
建築規模(例:客室数/客室面積)、施設グレード及び集客ターゲット、
客室以外の整備施設イメージ(レストラン、スパ・温浴施設等)
- ⑦ 隣接する宿泊施設やキャンプ場との連携等の考え方
- ⑧ 自然体験等のアクティビティ拠点としての利活用の考え方
- ⑨ 国内外観光客誘致の考え方(プロモーション戦略)
- ⑩ 開発エリアや事業スケジュール
- ⑪ その他事業者からの提案、事業化に向けた課題・不足しているインフラなど
- ⑫ 事業者公募への応募の意向・体制

4. スケジュール



1. 基本的方向（目指すビジョン）

- 何度も訪れたい・泊まりたい国立公園づくり
- 美しい景観の中でゆっくりとした雰囲気滞在できる場所づくり
- 地域資源である温泉等を気楽に楽しめる場所づくり
- インバウンドを含め多様なニーズに対応できるアクティビティの充実・強化
- 効果的なPRと情報発信

2. 事業方式

- 自然公園法に基づく公園事業認可（宿舎事業）
- 国有財産法に基づく土地の使用許可等

3. 応募資格

- 事業の実施に必要な免許、知識、経験・実績、資力、信用及び技術を有していること

【全体スケジュール（想定）】

※下記のスケジュールイメージは現段階での想定であり、整備する施設や事業者提案の内容により変動するものです。

平成30年2月

平成30年度中目処

平成32年度末
(2021年3月) 目処

事業者との
対話

公募要領
策定～公募
実施

事業者提案
～
選定／決定

施設設計
公園事業
執行申請等

施設整備

施設の
供用開始